

尿糖が陰性でも 糖尿病なのですか？

日本臨床検査医会

富永真琴



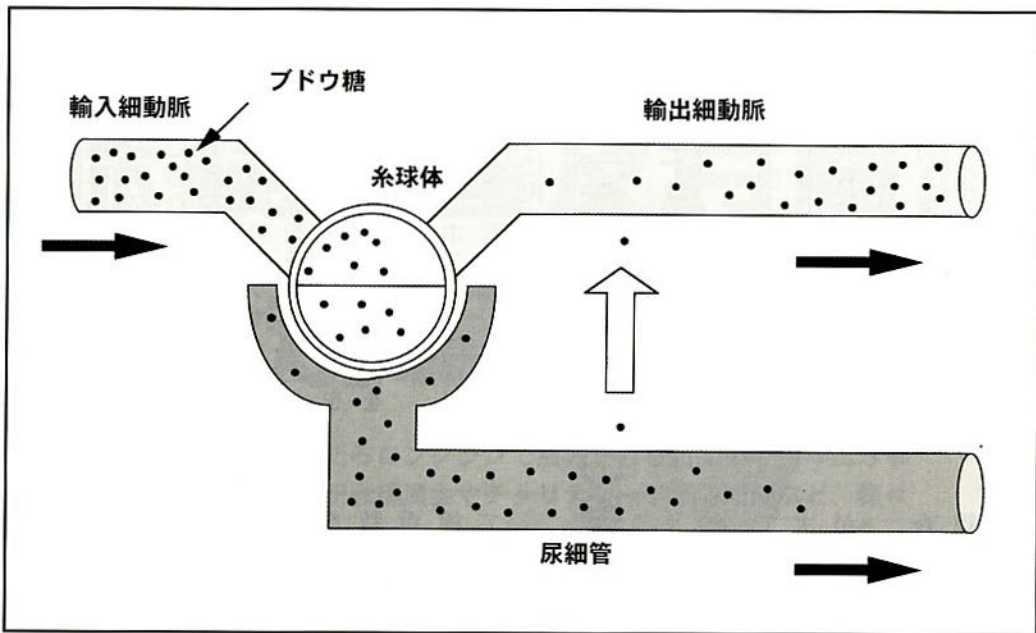
糖尿病と尿糖は言葉をはっきり返しただけなので、尿糖が出るのが糖尿病の特徴のように思われており、これが誤解の元になっていきます。尿糖が陰性でも糖尿病であることはいくらでもありえます。

では、そもそも糖尿病の特徴は何でしょうか。現在では慢性の高血糖がその最大の特徴であると考えられています。

なぜなら、糖尿病に典型的だとされる口が乾くとか尿の量や回数が多いとか全身がだるいとかの症状はなくても、たとえば尿

糖が陰性でも、慢性の高血糖が持続すると糖尿病に特有の網膜症、腎症などの合併症や、糖尿病に必ずしも特徴的ではありませんが、心筋梗塞や脳卒中という動脈硬化症に関連する疾患を生じるリスクが高いことが知られているからです。

高血糖と尿糖の関係について説明しましょう。腎臓は体内にたまった老廃物質を尿として体外に排泄している大切な臓器です。腎臓が体外に排出しなければならぬ物質は尿毒症物質と呼ばれる、物質としては低分子



量です。ブドウ糖も低分子量物質ですが、人の生命を維持するのに必要です。このように同じ低分子量物質でも生命にとって必要であり排泄してはいけないものと体外に排泄すべきものを腎臓は極めて巧妙に区別しています。腎臓は過剰な部分(糸球体)と再吸収する部分(尿管)に分けられます。糸球体では必要な成分も不必要な成分も全て尿中に排泄し、その後、尿管でブドウ糖など必要なもののみを再吸収します。こうして不必要な成分だけが尿中に排泄されます。このことをイラストで示しました。通常の血糖値ならブドウ糖はほとんどが再吸収されます。ところが、血糖値が高くなると、再吸収が追いつかなくなり尿中に糖が出現することになります。つまり、尿糖が出現するのは高血糖の結果に過ぎないのです。

通常、尿糖が現われる血糖値は一七〇mg/dl前後といわれており、一方、糖尿病と診断されるブドウ糖負荷試験の二時間血糖値は二〇〇mg/dlなので、尿糖が陽性であることは糖尿病が疑われる根拠になるのは事実です。しかし、尿糖の出現には個人差が大きく、尿糖が陰性でも、慢性的に高血糖である人はいくらもいます。事実、私たちが山形県舟形町で糖尿病検査を行った成績では、慢性の糖尿病を診断された方で尿糖が陰性であったのは三〇%以上にもほりま

した。

たとえ、尿糖が陰性でも高血糖であれば糖尿病と診断されることを良く理解して頂きたいと思えます。